

外国籍住民の福祉課題への相談支援、 住いがない要支援者への居住福祉 空き家を改修した居場所と地域づくり

のご案内



お庭



保育園



学習棟

外遊びの会



多文化保育園



2階

レンタル
教室



図書室

1階

おもちゃや



レンタル
ルーム

図書館



レンタル
キッチン



コミュニティカフェ



みんなの家



コモンズ
居場所図鑑



ジュントスハウス



えんがわハイツ



コミュニティカフェ



ミニカフェ



シェアハウス



運動室



学習棟



ぽかぽかホーム



シェルターを
兼ねたアパート

1 場の提供 常総水害をきっかけにはじめた空き家の福祉転用

2015年の鬼怒川洪水からの常総市の復興を考えたとき、地域に増えた空き家と、この地に暮らす人の多様性を生かすことがテーマになるとと考え、茨城NPOセンター・コモンズは、古い診療所と医者の住宅だった空き家を、コミュニティカフェ、多文化保育園からなる「えんがわハウス」に改修しました。さらに4つの建物も改修し、住まいに困っている人が助け合って暮らせるシェアハウスをつくりたり、改修したアパートにもシェルターとなる部屋をつくってきました。住まいの提供のほか、移動支援や生活や就労の支援も行ってきました。

シェアハウスから緊急一時支援施設へ

シェアハウスを運営しはじめると多様な課題を持つ方が入居するようになりました。身を寄せていた友人宅や会社のアパートから出ることになるなど行き場がない世帯が5組、刑務所や入管収容施設を出たが行き場ない人が4名、家に引きこもっていたが社会にでようとした日本人3名、DVで家を飛び出した母子が6組、難民申請中で住まいがない家族が4組、短期の住まいとして借りた外国籍の方が2名などが利用してきました。日本人であれば児童相談所が保護する未成年も、言葉や文化に対応するために保護してきました。下図にあるように、コモンズの建物はシェアハウスというよりは多様な課題に直面した人が人生を再出発するための場として機能しており緊急一時支援施設であると位置づけが変わっていました。

施設と事業の相互の関わり



4つのシェアハウスには14の居室があります。トイレ、風呂、キッチンなどは共用です。家賃は25000円～35000円。電気・水道・ガス・WIFIなど共益費が10000円。

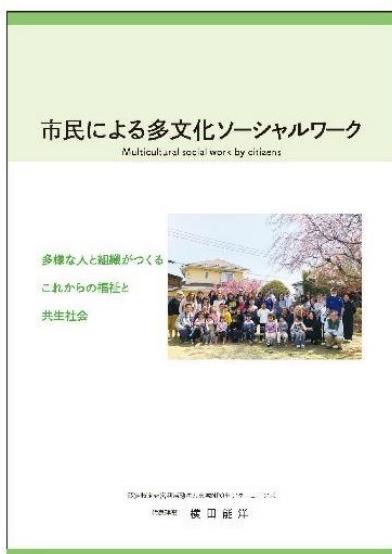
初期費用はかかりません。

家族向けの2Kのアパートがあります。家電製品、布団はそろっています。駐車場あり、駅に近いです。

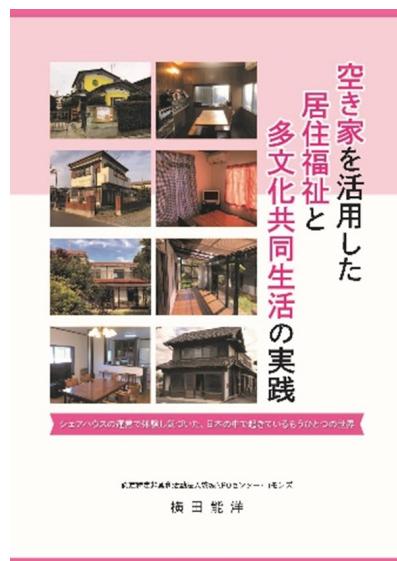
1ヶ月以上入居の場合、不動産会社との直接契約。家賃45千円。初期費用家賃2ヶ月分。電気・ガスは個別に契約。

2 対人支援 居場所の提供と合わせて行っている寄り添い型の支援

- ① 就労支援 カフェでの調理や接客のトレーニングや、保育園での保育補助は、障がいのある人や引きこもっていたなど一般就労が難しい若者の福祉的就労の場となっています。
- ② 次の居場所さがし 福祉的ニーズが高い人は、障がい者グループホームや母子生活支援施設へ転居支援。
- ③ DV被害家族支援 DVで子連れで避難した世帯には、母に対しては就労先探し、児童扶養手当や住居確保支援金、就学援助など経済的支援制度への申請支援をします。離婚の調停や裁判が必要な人には弁護士を紹介します。子に対しては、幼児であれば保育園で保育をしたり、就学年齢であれば小中学校、特別支援学校に入るのを支援します。
- ④ 福祉医療支援 住居を提供することで、居住地が定まり、生活保護が受給できたケースが8組ありました。また難民申請中で特定活動3か月の場合、在留カードが持てず住民登録もできませんが短期間の国民健康保険に加入することはできます。入管収容所を医療目的特定活動という在留資格で退所できた人は、日本でしか医療が受けられませんが、就労が認められないにもかかわらず生活保護申請が却下されました。そのため家賃、生活費、医療費もすべてコモンズや支援者の支援でなんとかしています。頻繁に通院が必要で、コモンズの移動支援を利用を活用して送迎しています。
- ⑤ 入管手続き支援 DVを受けた外国籍女性への支援では、家族滞在から就労できるビザに変更したり、配偶者ビザから離婚後に定住ビザに変更する、難民申請中の特定活動の人が特定技能の試験を受けて就労資格が受けられるかチャレンジするのを支援してきました。
- ⑥ 帰国支援など 日本に滞在するための方策を模索しても出口が見つからない場合は帰国の支援もしてきました。



多文化ソーシャル実践に関する書籍



DVで避難している家族、未成年、ヤングケアラー、障がいのある子と家族、生活保護、心の病、妊婦、非正規滞在、高校進学、在留資格変更など、コモンズがかかわった相談事例を紹介。相談支援に関心のある方向け

4つの空き家でシェアハウスをどうつくり、どう運営したかの記録です。改修などハード面ではなくソフト面の開設プロセスや入所者に行った伴走支援、支援を通じて見えた課題などを紹介しています。シェアハウスや居住福祉に関心のある方向け。

3 人材の育成 多文化ソーシャルワークの普及と実践

外国籍の要支援者への支援を多文化ソーシャルワークといいます。言葉の壁だけでなく、日本と母国で文化や制度が異なることや、在留資格によって活用できる福祉制度が異なることを踏まえた相談支援をします。

この実践で重要なのが、相談者の宗教や文化的背景、立場を理解してわかりやすく通訳をする外国人ピアサポートーと、多機関の連携です。多くのケースは、経済的問題、法的問題、在留資格に関する問題、医療福祉に関する問題など複合的な課題を有しているからです。

ピアサポートー講座

日本に5年以上暮らし日本語の会話ができ日頃から周りの外国籍の人の相談支援をしている人向けに、支援で役立つ制度を学んでもらう講座です。社会保険、税金、教育、福祉、防災が主な内容になります。学んだ人は相談会、福祉や教育の現場で有償で通訳をしています。今後は、介護に関する通訳、外国人防災リーダーの育成にも取り組んでいきます。ピアサポートーによるポルトガル語

での情報配信も行っています。

コモンズでは、ピアサポートーと共に、外国籍住民の視点で生活ガイドを作成しその翻訳は16言語まで増えてました。これらのガイドブックを活用した企業や市役所どへの出前講座も可能です。



多文化ソーシャルワーカー養成講座

自治体の子ども課、母子保健、福祉、DV支援、病院、保育所、児相、社協、介護事業所など、多様な福祉現場で外国籍要支援者にどう福祉サービスをとどけるかが課題となっています。言葉の問題もあり、福祉制度を理解してもらうことは容易ではありません。また、その外国籍要支援者の在留資格によって、生活保護などの対象にならないケースも出でています。宗教的配慮が必要な場合もあります。そのようなことや、ピアサポートーや多機関との連携などを学ぶのがこの講座です。

これからの福祉・相談支援で役に立つ
多文化ソーシャルワーク講座

地域で暮らす外国籍住民が増える中で、出産、子育て支援をはじめ、福祉が必要な人や家庭も増えています。言葉の壁、家庭の想い、どう配慮していくかわからないという心の壁を克服して、自分たちの国の人達が受けられるようにするにはどうすればいいでしょうか。
在留資格と相談支援の場所、言葉や文化への適応の仕方、医療や外国人ピアサポートー、外国籍の子供に対する心のカタチ、医療とへき地、など多言語の知識を踏まえて多文化ソーシャルワーカーさんにおけば、そして、いざというとき相談できる体制をつけておけば、できることがあります。

8月21日～12月17日までの全12回
(部分参加可能) 各回14：30～16：30
会場は水戸またはつくば
(オンライン開催)

講座の詳細

様々な対象者と接するどのような際にについて、全国で最先端の実験を行っているところを紹介する
開催場所はどこでありますか?
在留資格によって何が違うとなる場合は何がどうなるか
相談の仕事はどのようにしておこなわれる
相談の場でどの程度の時間はかかる
つまらぬ相談が何%かならないですか?

参加費 無料

申込みはこちら

QRコード

主催：独立行政法人国際協力機構(JICA)実践センター
主辦・運営：茨城NPO法人、茨城NPセンター

電話：0297-64-4281
FAX：0297-64-4291
電子メール：global@pcncomms.org

外国ルーツの子の教育に関する支援者向け講座

教育分野では、外国ルーツの子の就園、就学、高校進学やキャリア支援、心のケア、特別支援教育に関する支援が課題になっています。教員、日本語教室ボランティア、スクールカウンセラーなど子ども関わる人向けのセミナーも行っているほか、教育委員会生涯学習課主管の訪問型家庭教育支援員向けの研修にも協力しています。

この講座でもその子と家族の宗教や慣習などで女子の教育機会が制限されたり、在留資格による進学面での課題が取り上げられます。コモンズでは、多文化保育園を運営しているのほか、未就学児向けプレスクール、途中来日の子向けのプレクラスも運営しています。

オンライン開催
外国ルーツの子どもに関わる
支援者向け情報ネットワーク会
三美

学校や地域などで外国ルーツの子どもや、その家族に関わる方が集まり、就園就学や高校進学などについて、どのようにしらり寄り添ったサポートができるかについて、一緒に学び合いませんか？

日時：11月12日（水）から2月18日（水）全8回予定（一部参加も可）
時間：19：00～20：30（終了後30分 情報交換を実施予定）
対象：外国ルーツの子の就園・就学・進学に関してサポートを行っている方、または関心のある方。
茨城での活動が中心になりますが居住地、勤務先は問いません。
参加方法：Zoomを使用したオンライン形式。（録画視聴も可）
申し込み：下記QRコードからお申し込みください。
資料送付先をお登録いただくと相談支援に役立つ冊子をお送りいたします。

主催 特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ
助成 この事業は赤い羽根福祉基金の助成を受けています。
問い合わせ・申し込み 印刷込み QRコードから
特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ
住所：〒303-0001 茨城県結城市海老根本町3571-1
TEL：0297-64-4291
E-mail：npocommons.global@gmail.com

赤い羽根
福祉基金

4 JICA筑波等と連携した多文化ソーシャルワーク普及、福祉機関の連携促進

2023年度はピアサポートー養成講座を5回、2024年度は多文化ソーシャルワーク講座を12回、JICA筑波と協働して行いました。2025年度は、講座受講者と福祉の実践をしつつ、教育に関する講座も展開しました。

課題と対応する支援制度、サービス提供主体



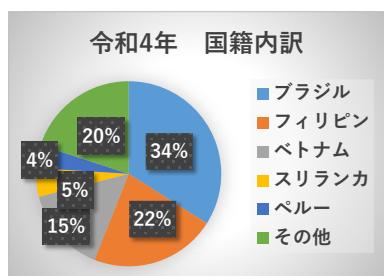
近年取り組んできた連携支援

- ①**妊娠婦支援**・・・非正規や医療保険未加入の妊婦、ムスリムで女医でなければだめという妊婦の出産支援で母子保健、医療機関、医療支援NGOなどと連携して出産支援。
- ②**児童支援**・・・児相と連携し難民申請中の家族に住居を提供し国保加入と就学、子の国籍取得を支援。家をでた高校生を保護し第三国への移住を支援
- ③**DV支援**・・・自治体と連携して家族を救出してシェルターで保護。経済的問題や在留資格の問題、離婚に関する法手続き、子の転学、福祉施設への転居などを支援
- ④**技能実習生**・・・職場で搾取やひどいじめにあっていった人を支援団体と連携して救出したあとに保護。心身の回復のための通院支援、日本語学習、地域との交流などを行い、労働問題が解決した後に退所。
- ⑤**生活困窮者**・・・ホームレス状態の家族を他の支援団体の依頼で受け入れ。日本での難民認定の可能性が低いとなり第三国への移住を検討。最終的には帰国。
- ⑥**元入管収容者**・・・支援者からの依頼で、入管の収容施設を退所、または仮放免や監理措置などで出た後に行き場がない人を入れ、支援者と連携して生活や通院支援や日本語教育などを行う。
- ⑦**元受刑者**・・・刑務所を出た後に行き場がない高齢男性を入れ、グループホームにつなぐ
非正規滞在状態でも、①は入院助産制度を活用でき②も18歳までは児童福祉の支援が可能ですが、宗教や言葉の問題が支援のネックになりやすいです。③は生活保護を受けるケースが多いですが、離婚により配偶者ビザを失う女性の就労資格への変更支援が課題になります。⑤はユニオンと連携し福祉的課題と労働の課題を解決しました。⑥⑦は生活保護がつかえず就労もできないために支援の出口をつくるのが非常に困難です。⑧は就労か福祉にどうつなぐかが課題です。外国籍の場合、帰国支援も重要になってきます。

5 多文化共生の地域づくりに関する講師派遣、研修企画、視察の受け入れ

茨城県常総市

人口:約61,180人
内外外国人住民 約6,400人
(外国人比率 約11%)



外国籍住民の増加傾向						
順位	市町村名	人口(R5)	人口比%	人口(R1)	人口比%	R1~R5伸び率
1	つくば市	12729	5	10514	4.3	1.21
2	常総市	6418	10.8	5493	9.2	1.16
3	土浦市	5266	3.7	4343	3.1	1.21
4	古河市	4686	3.4	5687	2.7	1.04
5	水戸市	3850	1.4	3687	1.4	1.04

コモンズ常総事務所がある常総市は、1990年の入管法改正以来、日系ブラジル人の方が多く住むようになりました。常総市を含む県西地域は子どもがいる外国籍世帯が多く、子どもたちが学びやすい環境づくりが重要なテーマです。そこで、就学前の教育として多文化保育園を運営したり、小中学校に通訳を派遣したり、高校進学と入学後の支援を行行政と連携し行っています。常総市は0歳児の4人に一人は外国籍ですが、未就学児の7割が不就園、就学状況不明の学齢児が80名もいるなど取り組むべき教育課題がたくさんあります。

その担い手を増やす取り組みとして、3で紹介した外国人ピアサポーターの育成を行い、地域で実践しています。最近、常総市役所や市民の方々と多文化共生推進で取り組んだのは、ゴミの分別の周知を図るためのモデルとなるゴミステーションづくりで、これは大学生や子どもたちも参加しました。

また、多文化防災では、避難所開設訓練と避難訓練も行っています。実際の避難所を体験したり、何をもって避難するか、どう災害情報を得るか、トイレ、電気、食料など家に何を備えるかを学ぶ活動を各地でしています。この訓練は学校に出前で行うこともでき、毎年、夜間中学校の防災授業に協力しています。

こうした活動を発信すべく、国際交流団体、民生委員、スクールソーシャルワーカー、福祉行政関係者の視察を受け入れたり、学生のインターンを受け入れたり、県内外に講師派遣も行っています。

避難の練習と避難所の体験会

日時 10月5日(日) 13時～15時
場所 水海道小学校体育館(常総市水海道天満町2516-1)
テーマ 避難所の体験 避難の準備と避難

①避難スペースを知る
②防災トイレコーナー
③情報入手コーナー
④災害グッズコーナー
⑤災害食
⑥ペット避難コーナー

申し込み
ごから
申し込み締め切り
9月30日

災害の情報を得て、持ち出しきものを準備し、家族やペットを避難してみて、避難所がどんな空間か体験しましょう。

外国籍住民向け避難訓練



ゴミステーションでの実験



多文化保育園と学習支援



6 災害関連の活動 被災地の復興支援に関する情報発信と自主防災

2015年9月の鬼怒川洪水では、コモンズ常総事務所も含め多くの家屋が浸水被害にあり、人口流出がきました。

発災時は外国籍住民も含め被災者の生活再建支援に取り組みました。そして復興のテーマとして、多文化共生と空き家を活用したコミュニティづくりと自主防災に取り組んできました。

右の冊子は、常総水害の後の被災地の市民に常総での経験を伝えるために作成した冊子です。

被災することはつらいことですが、空き家をカフェ、保育園、シェアハウス、学習の場に改修することで、水害前にはできなかった活動が生まれました。こうした地域づくりの可能性と活動する上で課題になることへの対応策を紹介しています。

コモンズは、中間支援組織でもあります。今後、県内福祉系NPOと災害時に連携できるよう研修を行ったり、ボランティア養成も計画しています。

今後は災害時に家をなくした被災者に空き家を活用して居住支援する仕組みづくりについても行政や関係組織と連携して作ることを目指しています。



■2015年9月の常総水害の発災時の状況、被災者が直面した課題と体験談、家の改修事例、次の災害に備えるための自主防災の取り組みを掲載しています。水害への備え、住民の視点での自主防災の取り組みを知りたい方向け。



■水害で空き家となった旧診療所と医者の住宅を地域復興の拠点とするために、土地建物の購入、新たな会社をつくっての資金獲得、国の助成を受けて改修を行った際の詳細な記録をまとめた本。実際に空き家をコミュニティ施設に変える際に直面する資金的課題、建築基準法など法的課題にどう対処したかを詳細に報告しています。空き家を活用したコミュニティづくりに関心がある方向け。



■えんがわハウスや、3つのシェアハウスをDIYの手法も取り入れて改修したプロセスを紹介している本。水害で傷んだ建物をコストを最小限にして市民参加で再生した記録。空き家、空き施設の改修の仕方を知りたい方向け。

平時から連携の仕組みをつくり、災害時に情報、住宅、福祉的支援を行えるように

